



第三十七回西日本菊花大会閉幕

内閣総理大臣賞に和田太義(宇部市)

西日本最大の菊花の祭典、西日本菊花大会(主催：宗像大社菊花会(千々和正信会長)・宗像観光協会(吉武邦彦会長)、後援：福岡県他)が、先月二十三日盛大裡に終了した。

この菊の祭典は昭和の大造営を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で三十七回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約二〇〇人から、丹精込めて育てられた菊約三〇〇鉢が出品され、量ともに西日本最大級である。

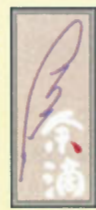
開催にあたってはまず十月二十一日宗像地区商工会青年部の有志によるハウス設営奉仕、翌二十二日宗像大社菊会員によるハウス組立奉仕が行われ、二十八日には協賛会社奉仕トラックで南は鹿児島、西は長崎、東は大分、北は山口から菊花が一斉に境内に搬入された。搬入された菊花は(社)宗像青年会議所・少年会議所奉仕のもと各ハウスに運び込み出品者の手により展示された。

また、毎年恒例となった地



12月祭事暦

毎月1・15日 月次祭	16日
午前10時 高宮祭	午前6時～ 古式祭
第二宮・第三宮祭	午前6時30分～ 御座
引き続き 宗像護国神社	午前10時～ 鎮火祭
月命日祭(1日)	19日 松尾神社祭
巡 拝(15日)	午前11時～
午前11時～ 総社祭	23日 天長祭
浦安舞奉奏(1日)	午前11時～
豊栄舞奉奏(15日)	31日
	午後3時～ 年越しの大祓式
	引き続き 除夜祭



部署柄、様々な職種の企画・広報担当の方とお会いする機会があり、その中で最近よく耳にするのが、顧客満足度を指すCS(カスタマーサティスファクション)という言葉です。■数年程度ではなく、永続的な収益を確保する上でも重要となり、今日では企業だけでなく「接客を重視する行政も特に力を入れているようです」■我々は神職で社に奉職して、います。御祭神と皇室・神宮を第一に考えることは言うまでもありませんが、その次に氏子・崇敬者が位置するかどうかは重要な事です。■このCSを神社に置き換えたら、参拝者・氏は、神職の言動、巫女の応対、境内の雰囲気・環境・サイン、祈祷・祈願、御守の品質やデザイン等、神社のイメージと実際に参拝された印象の相違をCSと考えてよいのではないのでしょうか。■全国の神社統括団体により先月発表された意識調査によると、「家庭で行われている年中行事」では、調査を始めた十年前と変わらなず「初詣」が最も高かったようです。高い順では「お盆・お彼岸」「家族の誕生日」「クリスマス」と続きますが、新年の初めに社寺へ参詣することが、現代の日本人にとってもいかに重要かを示していると思えます。■当社は福岡・北九州市の中間に位置し、正月は何十万人もの参拝者をお迎えします。宗像大社のCSが試される正月が今年も間もなくやって来ます。(M・O)

神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番



木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



元、宗像市立玄海小学校の児童による菊花も展示され、境内に一層の彩りを添えた。

そして今年で三十三回目となる九州菊花連盟九州大会が、十一月六日〜十三日迄、境内にて行われ、切花競技、各種一鉢競技が行われた。

本年より、祈願所前に「きくまつり」の花文字(懸崖菊)を設置し、観菊者の皆様を境内へと迎え入れた。この作品は、福津市の重光由紀子さんへ事務局より制作を依頼し、今大会のために特別に奉納頂いた作品である。

大会審査は十一月一日、福岡県農業試験場園芸研究所花き部長中村新一部長を審査長として、総

勢八名で行われた。出品は大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門に分かれ、各々非常に厳しい出品基準、審査基準により厳正に審査され、上位三位に内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞が授与された。

内閣総理大臣賞に輝いた、懸崖の部和田太義氏の作品は審査員をもうならせる出来栄で、ある審査員は「私が見てきた懸崖菊で五指に入る出来だ」と審査後語られた。

農林水産大臣賞の盆栽の部長谷川良治氏は、四年連続同部門一位の達人である。今年も達人の技が光る、古木の自然な形と菊のバランスが上手に表現され、私のような素人でも分かる幹の太さ、根張りを見せてくれた。

文部科学大臣賞の大輪の部保田直宏氏は、例年では考えられない夏の猛暑を乗り越え、厳しく長い残暑により寒暖の差が無く開花が遅れ各出品者をこ

まらせるなか、十二品種の時期が異なる大輪を見事に咲かせた。

十一月十八日には高向権宮司、吉武觀光協会会長、千々和宗像大社菊花会会長、審査長中村新一氏の来賓に愛好家約一〇〇名が出席し、宗像市神湊のゆうゆうふらざにて十時より表彰式が行われた。

期間中境内では、菊みくじ、菊苗売場、植木市、そして宗像觀光協会による宗像の特産品・軽食の販売を行う「いっぷく茶屋」も設置され、平日も境内は大変な賑わいを見せた。

最後に、この菊花展開催にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運び、また、広報花壇の設置等にご協力頂きました奉仕者の皆様へ誌面を借りまして、心より御礼を申し上げます。

各賞受賞者は下記の通り(敬称略)



内閣総理大臣賞	和田長谷川	太義直治	宇部市	大分県知事賞	関本紘一郎	飯塚市	福岡県農業協同組合中央会長賞	坂本重光	中間市
農林水産大臣賞	保田直宏	川直昭	城南区	福岡県議会議長賞	松尾常憲	大野城市	福岡県観光連盟会長賞	犬童進	八幡西区
文部科学大臣賞	保田直宏	川直昭	京都市	福岡県町村会会長賞	花野義光	東区	福岡県観光協会	佐野勝美	小倉南区
総務大臣賞	保田直宏	川直昭	前原市	福岡県町村議会議長会長賞	花野義光	嘉麻市	福岡県農林事務所所長賞	野村静男	田川郡
法務大臣賞	保田直宏	川直昭	鳥栖市	福岡県教育委員会賞	花野義光	飯塚市	福岡県産業振興協議会	中垣昭夫	三井郡
外務大臣賞	保田直宏	川直昭	嘉麻市	(社)全日本菊花連盟会長賞	花野義光	田川郡	九州旅客鉄道賞	野村昭夫	西松浦郡
財務大臣賞	保田直宏	川直昭	宗像市	九州・山口花卉園芸連絡協議会長賞	花野義光	宗像市	福岡県花弁園芸組合会長賞	和田昭夫	宇部市
厚生労働大臣賞	保田直宏	川直昭	遠賀郡	福岡県農業協同組合中央会長賞	花野義光	糟屋郡	福岡県花弁園芸組合会長賞	和田昭夫	大野城市
経済産業大臣賞	保田直宏	川直昭	大野城市	九州花弁卸売市場連合会長賞	花野義光	大野城市	福岡県花弁園芸組合会長賞	古賀秋吉	門司区
国土交通大臣賞	保田直宏	川直昭	田川郡	福岡県農協連合会長賞	花野義光	別府市	福岡県花弁園芸組合会長賞	青木利康	小倉南区
環境大臣賞	保田直宏	川直昭	大野城市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	武雄市	福岡県花弁園芸組合会長賞	久保田仁美	小倉南区
防衛大臣賞	保田直宏	川直昭	宗像市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	東彼杵郡	福岡県花弁園芸組合会長賞	山間サツキ	宗像市
内閣官房長官賞	保田直宏	川直昭	遠賀郡	福岡県農協連合会長賞	花野義光	大野城市	福岡県花弁園芸組合会長賞	秋山輝夫	行橋市
衆議院議員 山崎拓賞	保田直宏	川直昭	久留米市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	小倉南区	福岡県花弁園芸組合会長賞	松本里治	田川郡
衆議院議員 渡辺具能賞	保田直宏	川直昭	門司区	福岡県農協連合会長賞	花野義光	小倉南区	福岡県花弁園芸組合会長賞	高崎賢治	下関市
宗像大社司宮賞	保田直宏	川直昭	武雄市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	久留米市	福岡県花弁園芸組合会長賞	藤本正一	甘木市
九州農政局長賞	保田直宏	川直昭	鳥栖市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	霧島市	福岡県花弁園芸組合会長賞	田中弘之	直方市
福岡県知事賞	保田直宏	川直昭	八幡東区	福岡県農協連合会長賞	花野義光	小倉南区	福岡県花弁園芸組合会長賞	花田尚生	三養基郡
佐賀県知事賞	保田直宏	川直昭	大野城市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	小倉南区	福岡県花弁園芸組合会長賞	野村正臣	鳥栖市
長崎県知事賞	保田直宏	川直昭	久留米市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	久留米市	福岡県花弁園芸組合会長賞	山崎清己	築上郡
熊本県賞	保田直宏	川直昭	小城市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	久留米市	福岡県花弁園芸組合会長賞	平井喜久	八幡西区
	保田直宏	川直昭	小倉北区	福岡県農協連合会長賞	花野義光	行橋市	福岡県花弁園芸組合会長賞	田中マ	甘木市
	保田直宏	川直昭	朝倉郡	福岡県農協連合会長賞	花野義光	田川郡	福岡県花弁園芸組合会長賞	今村勇	霧島市
	保田直宏	川直昭	鳥栖市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	田川郡	福岡県花弁園芸組合会長賞	石原陸生	都城市
	保田直宏	川直昭	小倉南区	福岡県農協連合会長賞	花野義光	久留米市	福岡県花弁園芸組合会長賞	宮野克己	大野城市
	保田直宏	川直昭	久留米市	福岡県農協連合会長賞	花野義光	八幡東区	福岡県花弁園芸組合会長賞	石原剛	都城市
	保田直宏	川直昭		福岡県農協連合会長賞	花野義光		福岡県花弁園芸組合会長賞	安田	霧島市

※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。受賞された方々の更なる御健勝を御祈念申し上げます。

神宮大麻並びに宗像大社神符頒布始祭齋行

伊勢神宮式年遷宮奉賛会福岡県本部宗像支部を裏伊勢・神郡宗像に設立

十一月十六日午前十一時より、平成二十年に向けての神宮大麻並びに宗像大社神符頒布始祭が、当社祈願殿で阿部信宗像支部副支部長(宮地嶽神社 禰宜)斎主のもと厳粛に齋行された。

当日は西高辻信良福岡県神社庁長(太宰府天満宮々司)を

お迎えし、高向正秀宗像支部長(当社権宮司)を始め、宗像支部内の神職・氏子総代約一六〇名が参列し、『神宮大麻』は沖宗利宗像支部神社総代会々長(福岡県神社総代会長)に、『宗像大社神符』は安部照生宗像大社氏子会々長へとそれぞれ手渡された。

祭典後、清明殿へ場所を移し式典を行い、永年に亘り斯界に寄与された神社功労者の表彰伝達式が行われた。

その後、第六十二回(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会福岡県本部宗像支部の設立総会・結成式が開催され、本年四月の福岡県本部の設立に続き、宗像支部を設立。支部規約・役員選出・事業計画・予算を審議、速やかに決議され、ここに神郡宗像でも本格的な募財活動が始動する事となった。

この重儀は、悠久一三〇〇年の歴史に立ち、我が国固有の伝統文化を二十年毎に再現出来る世界に比類なき誠に意義深く貴重なものであり、また皇祖天照大神様をお祀りする



神宮は国家・国民の本宗であると同時に宗像大神様の親神様でもある。宗像大社は古来より裏伊勢とも称され、歴史・伝統的に神郡宗像の氏子の神宮崇敬は現在も脈々と生き続けている。

今回の御遷宮には五五〇億円の諸費用が必要となっており、その内三三〇億円は神宮において準備され、残り二二〇億円を前回に倣い経済・神界によって広く国民から募金をお願いする事となった。

福岡県の目標額は五億円。そして当支部の募財目標額は凡そ五二〇〇万円であるが、この神郡の民としての誇りを結集し募財活動の完遂を誓い、本結成式は終了した。

表彰者

- 東郷神社崇敬会々長 牧之内繁男 (福津市津屋崎)
- 波折神社総代会長 占部 稔 (福津市津屋崎)
- 宗像大社氏子会々長 安部 照生 (宗像市河東)
- 宗像大社氏子評議員 河野 一清 (宗像市神湊)

沖・中両宮秋季大祭齋行

十月二十五日恒例の沖津宮・中津宮秋季大祭が、筑前大島の中津宮で齋行された。

秋の大祭には古くから島内各地区より演芸の奉納もあり毎年大祭にて盛り上がりを見せており、大祭前日には沖中両宮奉賛会(会長 古賀理)・翼賛会(会長 福崎 延男)のご奉仕により立派な舞台も完成した。

大祭前日、夕刻より中津宮にて宵宮祭が齋行され、参列者は翌日の大祭を待ち望んだ。

明けて大祭当日は好天に恵まれ素晴らしい陽気の中、沖津宮遙拝所にての沖津宮大祭、大島の最高峰に鎮座する御嶽神社祭、宮崎地区での

厳島神社祭をそれぞれ齋行。

その後、午前十一時に中津宮秋季大祭が齋行され、神島宮司を祭主に氏子奉幣使として大島堂前の古賀光也氏が奉仕し厳粛に祭典が行われた。

祭典を終えてから午後一時半より島内の皆様による奉納演芸大会が始まり各地区より舞踊や演芸、カラオケなどの手作りの出し物が沢山披露され大勢の観客で境内を埋め尽くす中、出演者がお祝いに飴やお菓子などを撒いたりしながら約二時間にわたる奉納演芸大会は大いに賑わいを見せる中、本年の沖中両宮の秋季大祭を無事に終了した。

第三十六回 宗像大社短歌大会

第三十六回宗像大社短歌大会（主催）「宗像大社短歌大会」実行委員会、共催「毎日新聞社、後援」福岡市・宗像市・宗像大社（他）が、十一月十日（土）午前十時から観菊者や七五三詣で境内が賑わう中、清明殿で開催された。

今年度から、市民の短歌愛好者で作る実行委員会により実施されることになり、新たに「小中高生の部」が設けられた。

小中高生の部（午前）は、高向権宮司が「本大会に参加された



のを契機に、短歌に親しみ日本の文化を継承して「ください」と挨拶して始まった。この部門の新設の反響は大きく、計九一二首の作品が寄せられた。

当日は、生徒さんのクラブ活動やスポーツ大会等と重なったため、参加者はご父母・先生方も含めて約四〇名であったが、選者の桜川冴子先生の丁寧で分かりやすい選評に、皆熱心に聴き入っていた。「高校へ進学してから

も短歌の勉強をします」と抱負を委員に伝えて帰っていく生徒（中3女子）、「終業式に表彰します」と生徒指導に生かそうとおっしゃる先生もおられ、盛会のうちに閉会した。

一般の部（午後）では、約七〇名の参加者があり、高向権宮司が本大会の歴史にふれつつ「市民ボランティアが中心となって実施する新しい形となった。皆さんの手で育てていただきたい」と挨拶を述べて開会した。始めに、寺山修司と同

世代で交流のあった野田光介先生（「やまなみ」選者）が「素材を生かす」と題して講演された。「身近な素材を自分自身の見方で切り取ることが大切」と、著名な歌人の歌を例に挙げながら力説され、もの静かな先生のユーモアたっぷりのお話でたびたび会場が沸く。

続いて、受賞者と参加者の短歌について、青木昭子先生（ポトナム）選者・桜川冴子先生（「かりん」・福岡市歌人会理事）・野田光介先生の選評があった。「ほかの短歌大会より解説が丁寧（女性）との感想もあったほどで、長時間にわたったにも拘わらず、先生方の強調点や添削例に傾く参加者の席から熱気が伝わってきた。

表彰式では、昨年度まで本大会の選者を務められた大野展男先生（実行委員会顧問・「コスモス」選者）と青木昭子先生に賞状を渡して頂いた。

参加者の雰囲気は終始和やかで、「大会を通して知り合った友人と年に一回会えて嬉しい」「新しい仲間ができた」と、休憩時間には仲間同士の交流が行われていた。

今回は、二〇六首と大幅に応募作品数が増えただけでなく、本大会を初めて知って応募された方が目立ち年齢も若返った。また、近隣の山口県・佐賀県だけでなく秋田県・愛知県など他県からの応募者もあり、IT時代を反映した大会でもあった。

最後の会場の後片付けでは、



△出席された選者の先生方

積極的に手伝って下さる参加者がたくさんおられ、市民ボランティア活動による大会の、これ新しい形かも知れないと思われだが、「神事がないのがさびしい」との声もあり、次年度への課題が実行委員会に残された。



△挨拶する高向権宮司

△司会進行をする巻実行委員会事務局長

- ◆一般の部
 - 福岡県知事 今泉 洋子 (佐賀市)
 - 福岡県教育委員会賞 山崎 碧 (福岡市城南区)
 - 宗像市長賞 北崎 薫 (古賀市)
 - 宗像市教育委員会賞 加藤 栄子 (遠賀郡遠賀町)
 - 毎日新聞社特別賞 森 龍子 (宗像市)
 - 宗像大社宮司賞 梅木 和子 (春日市)
 - 宗像大社氏子会長賞 大畑真紀子 (山口県下関市)
 - 宗像大社賞 平 繁子 (筑後市)
 - 〃 古賀 弓子 (筑後市)
 - 毎日新聞社賞=5名 優秀賞=14名
- ◆小学生の部
 - 宗像市長賞 金丸 彩音 (玉川・6)
 - 宗像市教育委員会賞 福島 叶子 (日の里東・6)
 - 毎日新聞社賞 福崎 由衣 (大島・6)
 - 宗像大社賞 田志 賢人 (大島・6)
 - 入選=2名
- ◆中学生の部
 - 宗像市長賞 植松絵里奈 (福岡女学院・3)
 - 宗像市教育委員会賞 永山 裕樹 (日の里・3)
 - 毎日新聞社賞 久保 綾乃 (日の里・3)
 - 宗像大社賞 宮本 真里 (福岡女学院・3)
 - 入選=1名
- ◆高校生の部
 - 宗像市長賞 田積 優理 (宗像・2)
 - 宗像市教育委員会賞 吉武 敬介 (宗像・1)
 - 毎日新聞社賞 平崎 彩果 (宗像・2)
 - 宗像大社賞 岡田 大亮 (宗像・1)
 - 入選=14名

宗像大社コンサート

小野明子・片岡リサ・バイオリンと箏の饗宴

十月二十九日、宗像大社コンサート「小野明子・片岡リサバイオリンと箏の饗宴」(主催)宗像ユリックス、宗像市田島神湊地区コミュニティ運営協議会、協力)宗像大社)が当社拜殿で開催された。

このコンサートは市内の公共ホール「宗像ユリックス」により、身近で親しみのあるクラシック音楽の普及を目的とし、地域住民との交流のための出張コンサートとして開催

されました。

演奏者は昨年、宗像ユリックスで行われた東京交響楽団の公演でソリストを務められ、現在イギリスのロンドン在住の新進バイオリニスト「小野明子」さん、文化庁芸術祭新人賞を史上最年少で受賞の箏(こと)奏者「片岡リサ」さん、第三回フランス音楽コンクール奨励賞受賞のピアニスト「伊東晶子」さんの三人。少し肌寒くなった秋の夜の



午後七時、近隣住民約百人が見守るなか、まず、厳かに正式参拝の儀が執り行われた。出演者はいずれも正式参拝が初めてとあつて緊張した面持ちで玉串を捧げ、今回の奉納演奏の成功を祈られた。

引き続き、奉納演奏とコンサートが行われ、ドヴォルザークの「ユーモレスク」やエルガーの「愛のあいさつ」などのクラシックの名曲や、日本の四季メドレーと題された唱歌「荒城の月」「祭の太鼓」などの日本の曲、最後に出演者全員での「春の海」などが各曲にまつわるエピソードとともに披露され、幻想的な雰囲気

に聴衆は酔いしれました。この演奏はバイオリンと箏という珍しい組み合わせでの共演となつたことのほか、普段観られない神社でのコンサートということもあり鑑賞した近隣住民の方々にすこぶる好評

でした。

演奏後、出演者たちは高向権宮司と歓談し、「芸能の神様(弁財天)としても知られる神様の前での演奏は、大変光栄で貴重な体験でした」と語られ

ていました。特に幼少時から海外に在住している小野さんは「日本的な場所で、普段あまり弾かない日本の曲を演奏したことによつて、自分が日本人であるということを再認識する良い機会となつた」と話されていきました。

三名の演奏者は、翌三十一日宗像ユリックスで行つた公演の際にも、今回当大社における奉納演奏での体験を話しておられました。

出演者プロフィール

小野 明子 おの あきこ(バイオリン)

12歳から英国メニューイン音楽院に単身留学。1998年、世界人権デー発足5周年記念会議に招待され、国連本部で演奏。2000年メニューイン国際バイオリンコンクールで優勝し、『ロンドン・タイムズ』紙の1面を飾る。20世紀最高の巨匠バイオリニスト、メニューイン最後の愛弟子。

片岡 リサ かたおかりさ(箏)
大阪音楽大学卒。文化庁芸術祭(音楽部門)新人賞を、洋楽邦楽問わず史上最年少で受賞するなど、伝統音楽の枠を超えた音楽性が、さまざまなジャンルで高く評価されている。「Disney on CLASSIC」の初公演において東京フィル・大阪センチュリー響と共演。

伊東 晶子 いとう あきこ(ピアノ)
国立(くにたち)音楽大学を卒業後、'01年バリオ市立高等音楽院を修了。'01年フランスのクロード・カーンコンクール入賞、'02年第3回フランス音楽コンクール奨励賞などの数々の賞を受賞。現在、ソロや伴奏活動をしながら、後進の指導にあたる。



▲左から小野明子氏、片岡リサ氏、伊東晶子氏



太宰府天満宮

親善野球大会

十一月十三日、恒例となっている太宰府天満宮との親善野球大会が宗像市牟田尻の「玄海B&G野球場」で開催された。

昨年より混成チームで東西神社人野球大会に参加している両チームであるが、この日ばかりは真剣勝負、神島崇(太宰府)、大塚(宗像)両エースの先発で試合は開始された。

初回、宗像大社チームは守備の



刀剣展閉幕

十月二十八日から十一月二十五日まで、宗像大社神宝館において「宗像大社刀剣展」が開催された。

西日本菊花大会とともに秋恒例の神賑行事となっている刀剣展は今回で二十回を迎えたが、本年も宗像地域を中心とした愛好家の方々から甚大なご協力を賜り、古くは鎌倉時代後

期の古刀から現代刀まで、全国各地の刀工の作品約六十振を展示することが叶った。

内容は、過日奉納された脇差と槍をはじめとする当社の所蔵刀、古来より刀剣の製作が盛んである相模国、美濃国、山城国、大和国、備前国の刀、脇差、短刀や五ヶ伝の流れを引くもの、また、精緻な装飾が施された小柄、こうがい、鐔、目貫などの刀装具で、整然と陳列された品々は静寂に独特の美しさを放っていた。

来館者の観覧の様子は様々で、刀姿、鍛え肌、刃文、帽子、

乱れにより一挙四点を失ったが、攻撃面では神島(崇)投手の時折みせる豪速球に最初は腰が引けていたものの、追い込まれる前に狙いを絞り、数本の安打を重ね五対三まで追いつく。しかし終盤突き放され結果八対三で天満宮チームの勝利により秋の親善野球は幕を閉じた。

夕刻よりは太宰府天満宮西高辻宮司以下後発隊も加わり当大社五月寮に於いて懇親会が開催され、両宮職員はより一層の親睦を深めた。



茎形、銘などをじっくりと鑑賞し、刀工が表現しようとした「美」や権威や信仰の下にある刀剣の「歩み」を想像する方もいれば、一方で、不思議に変化する刃文や、鉄地に鍍金、金象嵌、肉彫、透かしなど見事な技を施した絢爛豪華な刀装具に魅了される方もおり、皆それぞれに展覧会を楽しんでいた。

本年も多くの方のご協力により、盛会のうちに幕を閉じた。尽力賜った皆様にご心より御礼申し上げます。



第32回 秋季奉納 吟詠大会

文化の日、毎年恒例となっている詩歌朗詠清香吟社による奉納吟詠が行われた。本殿での松岡進山氏による献吟、清崎雪山氏先導による吟道合吟の後、場所を清明殿に移し永年斯道の興隆に寄与された奈良西山氏・谷川安山氏・柳沢寿山氏に当社より表彰状と祈念品が贈られた。その後、会員による吟詠が披露され盛大なままに幕を閉じた。

会津・宗像窯 宗像亮一氏参拝

十月二十日会津・本郷の宗像窯七代目当主宗像亮一氏とその御家族が、先祖の故郷でもある当大社へ参拝され、神恩感謝祈願をうけられた。

宗像窯は創業享保四年(一七一八)、東北最古の登り窯(会津美里町文化財)として有名であり、代々世界的な作品も輩出されている。

現在は亮一氏の長男 利浩氏が平成十七年十月に八代目を襲名され、又、その妹の眞弓氏も約二十年の陶歴を積み、陶芸の道歩んでいる。



古式祭の御案内

800年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- 日時 12月16日(日)
- 祭典 午前6時～
- 祭場 宗像大社 本殿
- 御座 午前6時30分～一番座
(一番座=50名づつ、五番座まで)
- 会場 宗像大社 清明殿
- 御座料 1人=1,000円
- 御座券は当日午前6時～販売致します。
(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の『罪』・『穢れ』を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事です。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後の祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- 日時 12月31日(月)
- 午後3時～
- 場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに『人形』(男=白、女=赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、『車型』にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



交通安全 宗像大社初詣

交通規制のお知らせ

- 期間**
- 平成19年12月31日
午後9時から
平成20年1月1日
午後9時まで
 - 平成20年1月2日～1月4日
午前9時から午後7時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



第五五六回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

福津市 若木台 野間 精一

貸農園に楽しむ人らに声かけて語りて見たし秋空の下

みずからも家庭菜園をすると聞く作者らしい親愛の情が見える。二句は「いそしむ人ら」も考えられる。

福津市 中央 池浦 千鶴子

われのみの一と思ひ墨磨れどおろおろとして日は傾きぬ

「おろおろとして」は、意に叶ふ書が書けなかつたという事だろうか、一寸判りにくい。

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子

難病の再発なきを祈りつつ水切るるまで布巾を絞る

作者はサルマイドールズにかかつて居られるとか、そのなかで猶、自立の気持を持ちつつける気力が見える下句である。

うきは市 浮羽 向 則正

幼き日土産にもらひし甘き菓子くろがね羊羹鉄部にちなむと

嘗ては日本の重工業産業を支えた八幡のようかんだろうか、「甘き菓子くろがね羊羹」のリズムが、往時を偲ぶころと合致していて気がいい。ただ二句は「もらひぬ」と終止形の方がいい。

福津市 中央 中村 勇

金剛杖入れ忘れたり妻の樞天国への道遠しと云ふに

先立つた妻にそそぐ愛情の程が、私達に直に手渡して伝わる挽歌である。

宗像市 光岡 則松 芳子

沿道の桜並木に開花して季節はずれで人目をみはる

宗像市 光岡 森田 富佐子

桜花季節はずれに開花してうす紅色し秋陽を浴びる

二首共に俳句の季語で言う、返り花、二度咲である。十月をゆめかとはかりさくら花 風雪 を思い出した。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

木の枝につかまり歩く石畳ステと土撒き腰を伸しぬ

私も杖を使っているが、石畳などは苦手である。ステと土撒きが判らないが、危ふい歩みの感じは出ている。

福岡市 中央区 加野 シノブ

爆音を空に残して飛行機は外国々へめざして行きぬ

四句は「とづくにぐにへ」と読むのだろうか、作者の海外への憧れの気が詠わせた一首である。

福岡市 南区 井田 有久衣

当主なく廃屋となるクリニックあじさいだけが吾が世と謳歌す

ドーナツ化現象とかシャッター通りとか言われる今の世相の一場面だが、病院が無くなることは地域の人達には深刻な問題である。

宗像市 田久 巻 桔梗

へみあれ祭待つ中津宮くさむらに銀杏にはふ段は掃かれて

島人たちの敬虔な気持が銀杏の匂いに託して詠われていて、すつきりとした一首。

宗像市 田野 森 甲子

台風は低気圧となるも風強く掠る病葉はらはらと散る

「はらはらは、木の葉などが少しづつ続て静かに舞い落ちるまで、三句の「風強く」と合わない。上句を低気圧となりて台風すきてゆくか、結句を「吹きちぎりゆく」とすきたらう。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

かきいろの小花びつしりつけている木犀香れり朝の冷気に

上句は木犀の花のさまを詠いやや平凡だが、それを救っているのが、結句である。練達の士である。

宗像市 日の里 大和 美由紀

炎天に咲き続けたる胡麻なれどしいなの多く収穫わづか

胡麻をあわれむと共に、作者もまた落胆しているのである。胡麻を叩いて悲しみのまたひとつ、大木あまりの句の心境であろう。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

亡き母の藤椅子いまだ縁側に色の変れどそのままに在り

藤椅子を通して亡き母を偲んでいる作者。ただ「色の変れど」は理が働き過ぎて理屈っぽいので「色の変りて」と素直に叙したい。

選者詠 姿まだ見せざる秋に呼ばるるや時の間借しみて鳴く法師蟬

書きなつむ私の前に来てとべりとんぼは楷書は草書にまされなくちんちんりんの鳴く聴けば夜は俄に秋めきてをり



第五三二回 俳句作品集

宗像市 光岡 白土 凌一
秋空に高く舞わんやトビ一羽
宗像市 日の里 花田 いつ枝
御座船や秋浦波の立ち上がる

編集後記

ご覧のように、表紙のレイアウトが変わりました。先月、伊勢神宮式年遷宮を奉賛する宗像支部が設立され、いよいよ平成二十五年に行われる第六十二回神宮式年遷宮へ向けて本格始動です。伊勢神宮の天照大神様は、皇室の祖先神であり日本人の総氏神です。よって北は北海道、南は沖縄まで全国各地で奉賛支部が立ち上げられ、今後様々な奉賛活動が行われていきます。▼当地と伊勢神宮の神縁は他に類をみないほどで、当社にお祀りされる三姉妹の姫神様は天照大神様の御子神であるのもとより、当地は裏伊勢とも呼ばれています。また長女・次女神を辺津宮境内に祀る第二宮・第三宮の御社殿は第六十回式年遷宮で下賜されたものであり、さらに神宝館には同様に下賜された神宝も数多く展示しており枚挙に遑がありません。▼「神は人の敬によりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」(御成敗式目)。神社の神様は皆様のご崇敬により、さらに神威を増します。ちなみに宗像大社神職の伴侶にも伊勢人は何名かおります。小生も含めて……。(M.O)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社社務所 発行所 宗像

定価1年送料共1,000円